

高知県における「小さな集落活性化事業」 ～さらなる地域の活性化へ～



令和5年7月8日

高知県 中山間振興・交通部
中山間地域対策課長 安藤 優



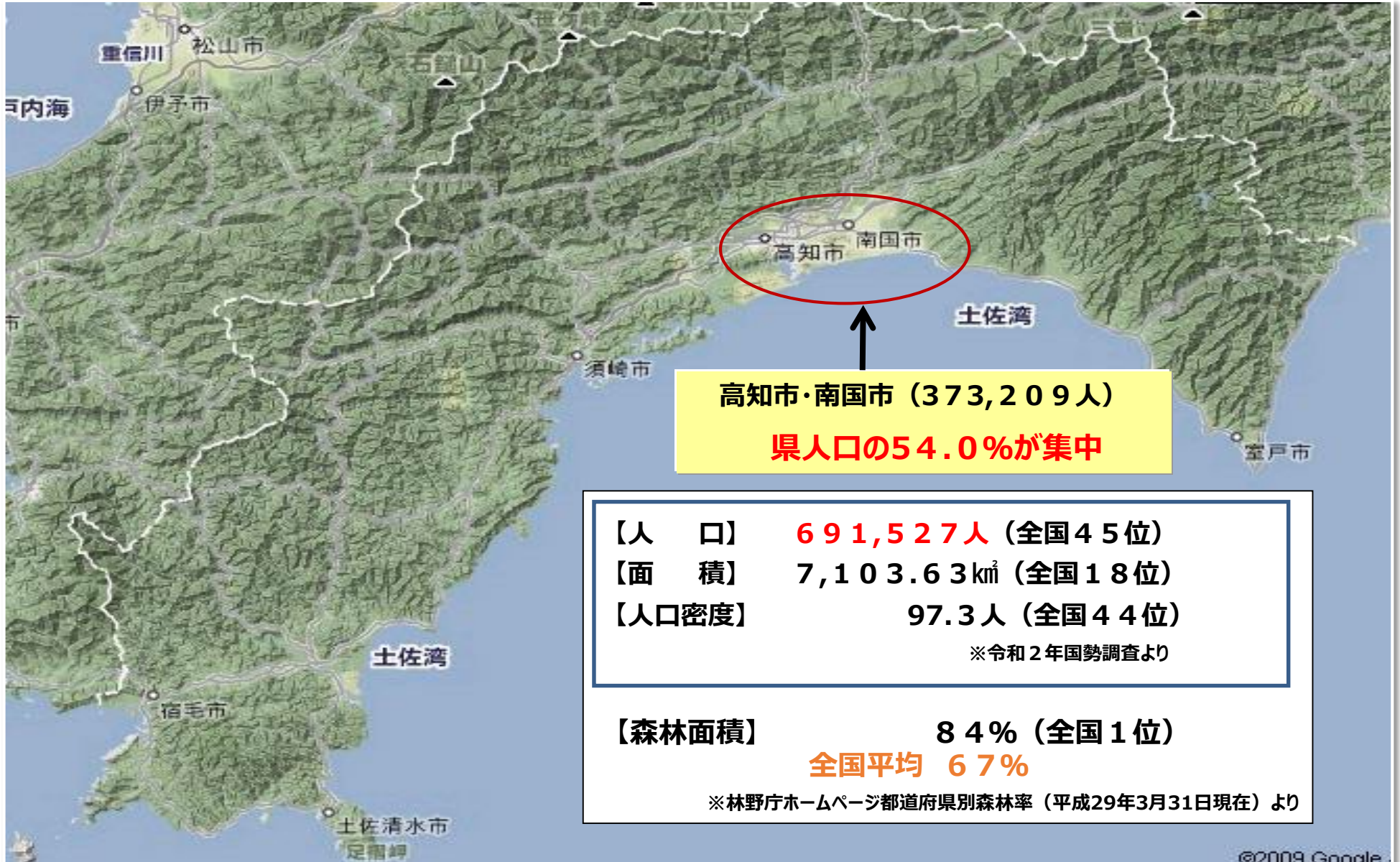
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

本日の内容

- 1 高知県の中山間地域の現状
- 2 10年ぶりの「集落実態調査」
- 3 集落活動センター
- 4 小さな集落活性化事業

高知県の中山間地域の現状

高知県の現況



中山間地域の概要

中山間地域とは

◆用語

農業センサス（統計調査）の4つの区分の中の「中間農業地域」と「山間農業地域」を合わせた地域の総称

◆運用上の定義

他の地域に比べ、地理的な条件などが不利な地域として、国が法律（地域振興立法5法）で指定し、必要な振興策を講じている地域（法律で明確な規定なし）



高知県の定義：地域振興立法5法の対象地域

- ①過疎地域持続的発展支援特別措置法による「過疎地域」 ②特定農山村法による「特定農山村地域」
③山村振興法による「振興山村地域」 ④半島振興法による「半島地域」 ⑤離島振興法による「離島地域」



面積 (km ²)			人口 (人)		
県全体	中山間地域	割合	県全体	中山間地域	割合
7,104	6,623	93.2%	691,527	262,503	38.0%

* 令和3年高知県集落調査より

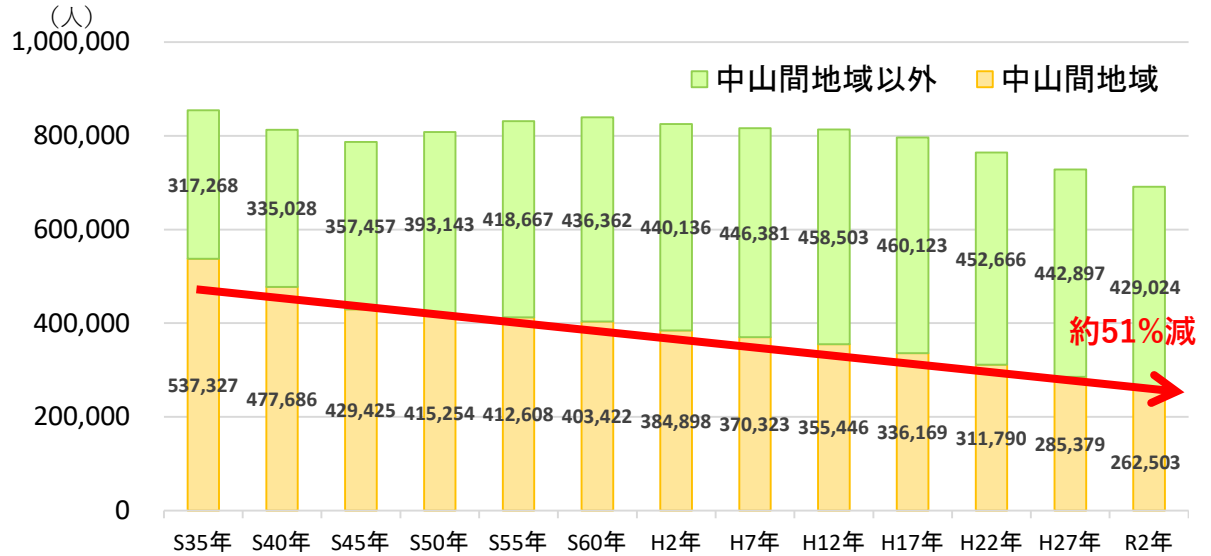
県内34市町村のすべてが中山間地域を含む市町村

中山間地域の課題

● 中山間地域の人口の推移

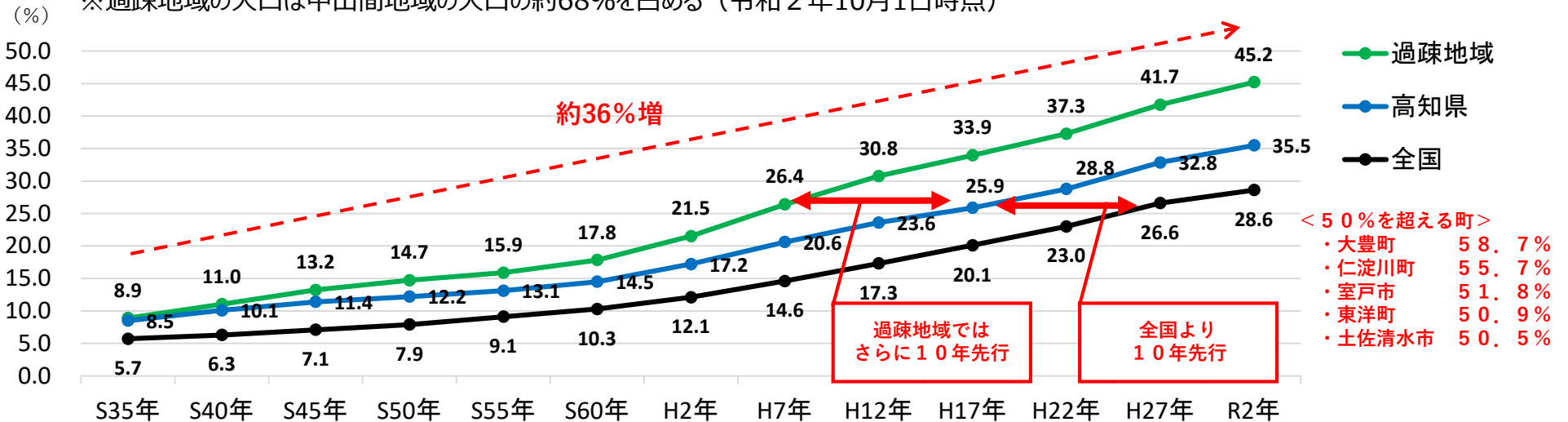
中山間地域の人口は、
昭和35年から継続的に減少
60年間で約27万人減少
(約51%減)

※総人口の減少率は19%



● 過疎地域の高齢者比率の推移

※過疎地域の人口は中山間地域の人口の約68%を占める (令和2年10月1日時点)



◇ 高知県の高齢者比率は35.5%で、全国で2番目の高率 (全国28.6%)

◇ 過疎地域の高齢者比率は45.2%で、県平均より9.7ポイント高い

※令和2年国勢調査及び
令和3年度高知県集落調査より作成

10年ぶりの
「集落実態調査」

高知県集落調査の概要

10年ぶりに実施！

1 集落実態調査

① 調査の目的

- 地域の実情や住民意識、思い等について**前回調査からの経年変化の把握**
- これまで**10年間の中山間対策の取り組みの検証**
- 中山間地域の新たな課題やニーズの抽出と、それに対応するための**新たな中山間対策の施策づくり**

② 調査の内容

- 中山間地域を中心とした、**概ね50世帯未満の集落を対象に実施**
(主な内容：集落活動、生活環境、安全・安心、中山間の産業づくり)

2 集落データ調査

令和2年国勢調査の結果を踏まえ、市町村や集落ごとの人口、世帯、高齢化率等に関するデータを整理

調査対象数：2,522集落

調査内容

- ・ 県及び市町村の人口、高齢化率の推移
- ・ 集落数の推移
- ・ 世帯規模、人口増減、世帯数増減、高齢化率から見た集落の状況

※昭和35年から5年ごとに定期的に実施

集落代表者聞き取り調査

(訪問による聞き取り調査)

- 調査箇所：1,451集落
- 対象：地区長等の代表者
- 実施期間：令和3年6月～令和4年1月
- 調査方法：調査員の訪問による聞き取り
- 調査項目：56項目
(漁村のみ10項目追加)

抽出

住民アンケート調査

(個人の記述による調査)

- 調査箇所：109集落
- 対象：集落在住の18歳以上の方
- 実施期間：令和3年9月～令和4年1月
- 調査方法：住民アンケート調査票の配布・回収
- 調査項目：51項目
- 配布数：5,692人
- 有効回答数：2,368人 (有効回答率 41.6%)





聞き取り調査の様子

知事も
聞き取り調査に
参加しました！



集落データ調査の結果

■ 世帯数別集落数及び割合

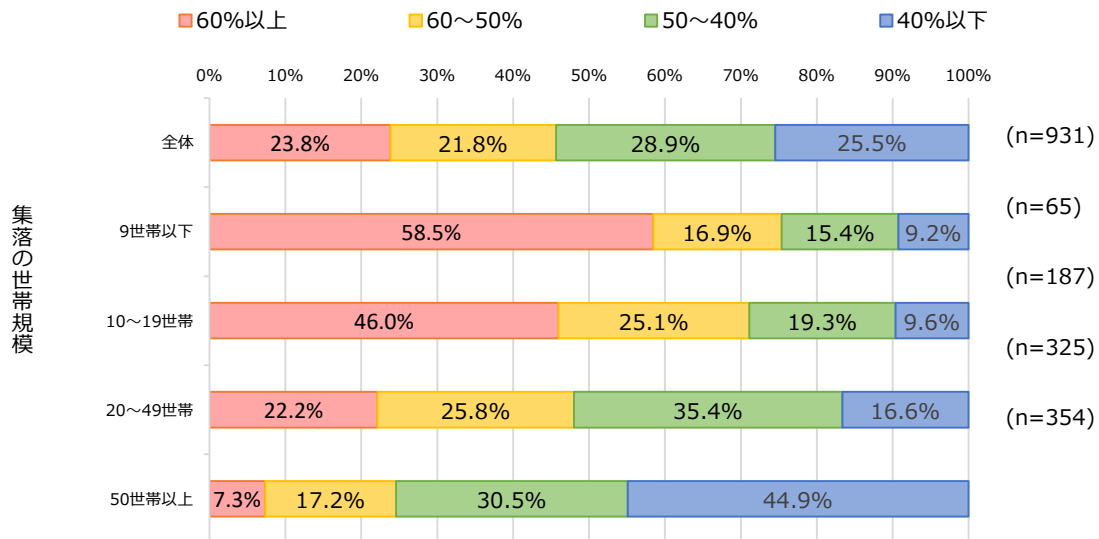
(単位：集落、%)

	平成22年		平成27年		令和2年	
	集落数	構成比	集落数	構成比	集落数	構成比
全体	2,366	100.0	2,360	100.0	2,351	100.0
19世帯以下	651	27.5	694	29.4	745	31.7
9世帯以下	246	10.4	288	12.2	324	13.8

※旧高知市分の171集落を除く

- 世帯数が19世帯以下の集落は、745集落で、平成22年から令和2年までの間に94集（+14.4%）増加している。
- 平成27年からの5年間で、世帯数が19世帯以下の集落は、51集落（+7.3%）増加している。
- ◆ **集落内世帯数が19世帯以下の集落が増加しており、集落の小規模化が進んでいる。**

■ 世帯数別の高齢化率



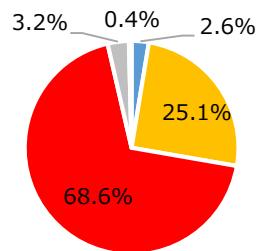
- 集落の世帯数別の高齢化率をみると、**小規模な集落ほど高齢化率が高い傾向**にある。
- 特に19世帯以下の集落では、高齢化率が50%以上の集落が7割を超えている。

※高齢化率が把握できる集落のみで比較 (n=931)

集落实態調査の結果

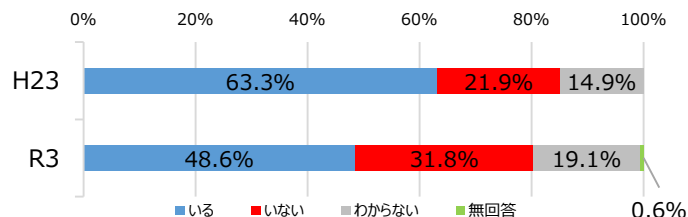
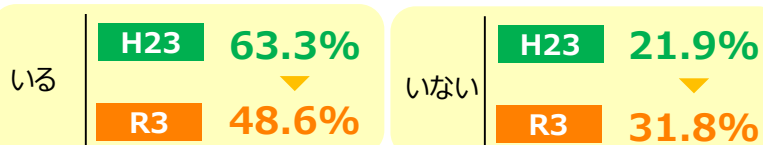
① 10年前と比べた地域活動への参加者

『減った』 **68.6%**



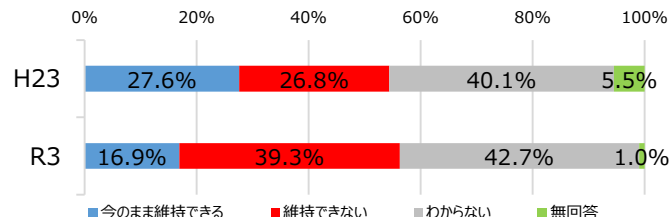
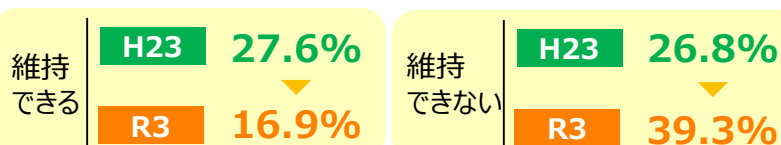
■ 増えた ■ 変わらない ■ 減った
■ わからない ■ 無回答

② 世話役の後継者の存在



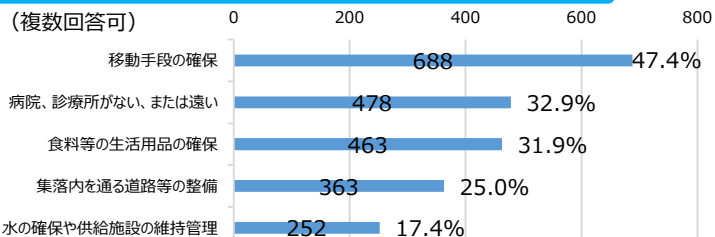
■ いる ■ いない ■ わからない ■ 無回答

③ 今後の集落活動の維持



■ 今のまま維持できる ■ 維持できない ■ わからない ■ 無回答

④ 日常生活で不便に感じていること（上位5つ）



⑤ 主要産業の現状

『衰退している』 **81.1%**

『継続、または繁栄している』 8.1%

※ ①②④⑤は集落代表者聞き取り調査 (H23: n=1,359集落、R3: n=1,451集落)
※ ③⑥は住民アンケート調査 (H23: n=3,443人、R3: n=2,368人)

⑥ 集落にこれからも住み続けたいか

住み続けたい **70.9%**

68.2%

調査結果の総括

- 10年前に比べ地域活動への参加者が減少、将来の集落維持に不安を抱える集落が増加。
- 生活環境では、飲料水や生活物資、移動手段の確保などの日常生活の不便さを確認。
- 産業面では、農業や林業などの基幹産業が衰退。
- 多くの集落に共通して、「担い手不足」が大きなボトルネックとなっている。
- 多くの住民の方は集落に愛着を持ち、「住み慣れた地域で暮らしていきたい」と希望されている。

今後の中山間対策の方向性

一人ひとりが暮らし続けられる**生活環境づくり**を進めるとともに、
地域に**活力**を生み出す取り組みや地元で働き続けることができる**産業づくり**を支援！

新たな中山間対策の方向性

～ 3つの柱と8つの施策 **山中 [三柱] 八策** で中山間対策を抜本強化 ～

柱 1 「暮らし」を支える

～ 暮らし続けられる
環境づくり ～



- I 生活環境づくり
- II 安全・安心の確保

柱 2 「活力」を生む

～ 地域を支える
活力の創出 ～



- III 集落活動センターの推進
- IV 小さな集落の活性化
- V 中山間の人づくり
- VI デジタル技術の活用

柱 3 「しごと」を生み出す

～ 所得向上と
雇用創出 ～



- VII 基幹産業の振興
- VIII 新たな生業、仕事づくり

■ 集落実態調査を踏まえた中山間対策の施策体系【山中八策】

地域住民が支え合い、暮らし続けることができる持続可能（サステナブル）な中山間地域の実現に向けて、「暮らし」を支える、「活力」を生む、「しごと」を生み出すの3つを政策の柱として、8つの施策を掲げ、全庁が一体となって中山間対策を進める。

第一策

生活環境づくり

テーマ：中山間地域で暮らし続けることができる環境づくり

- ◇ 飲料水の確保に向けた環境整備
 - ・給水施設、浄水装置などの整備
 - ・施設の維持管理の効率化に向けた仕組みづくり
- ◇ 生活用品を確保するための環境づくり
 - ・移動販売、買い物代行などの仕組みづくり
 - ・地域商店の維持に向けた支援（店舗改修、事業承継、空き家活用など）
- ◇ 地域交通の維持・確保
 - ・県と市町村における地域交通計画の策定
 - ・コミュニティバスなど、地域の課題に応じた移動手段の確保対策
- ◇ 鳥獣被害対策の推進
 - ・防除対策の推進
 - ・捕獲対策の強化

「暮らし」を支える
～暮らし続けられる環境づくり～

第二策

安全・安心の確保

◇ 住民の身近な地域での支え合い、助け合いの仕組みづくり

- ・支援が必要になっても活躍し続けることができる地域づくり
- ・あったかふれあいセンターの機能強化・市町村における包括的な支援体制の整備
- ◇ 福祉サービスの充実による安全・安心の確保
 - ・中山間地域での介護サービス確保など
 - ・高齢者等の生活支援の充実

テーマ：中山間地域で健やかに安心して暮らせる仕組みづくり

◇ 地域医療体制の確保

- ・へき地勤務医師や看護職員の確保
- ・在宅医療体制の充実（訪問看護、在宅服薬指導、オンライン診療）

◇ 地域防災力の強化

- ・災害に強い人づくり・地域づくり
- ・避難所の確保、資機材の整備
- ・地域住民の安全・安心の確保

第三策

集落活動センターの推進

テーマ：集落活動センターのさらなる取り組みの強化

- ◇ 集落活動センターの取り組みの継続・発展
 - ・活動内容の拡充、運営基盤の強化（農村RMO、中山間地域等直拡交付金の活用など）
 - ・後継者育成や地域外からの人材確保による活動への参画者の拡大
- ◇ 集落活動センターの取り組みの県内への普及・拡大
 - ・センターの取り組みの情報発信の強化（SNSなどの活用、物販・交流イベントの開催など）
- ◇ 集落活動センター相互の連携・ネットワークの構築
 - ・連絡協議会の活動基盤の強化（ブロック別の活動強化、相互交流・連携事業の促進）
 - ・地域団体や民間事業者、大学等との連携強化

第四策

小さな集落の活性化

◇ 「小さなぎやか集落」の創出

- ・小さな集落の共同作業や地域活動の再生
- ・地域の伝統文化などの継承

◇ 集落活動センターとの連携

- ・集落活動センターと小さな集落の協働の仕組みづくり

◇ 関係人口の創出

- ・NPO、大学、民間事業者、観光客、ファンなどの地域活動への参画促進
- ・地域と地元大学との協働による地域づくり

テーマ：「小さなぎやか集落」の仕組みづくり

第五策

中山間の人づくり

◇ 県外からの移住促進

- ・裾野の拡大
- ・マッチングの強化
- ・受入体制、受入環境の整備（空き家対策等）

◇ 地域外からの人材の確保

- ・地域おこし協力隊の確保
- ・交流人口の拡大

◇ 地域内での人材の育成

- ・福祉人材の育成・確保
- ・地域活動のリーダー、後継者の育成

◇ 産業人材の育成、確保

- ・産業人材の育成（土佐MBA）
- ・専門人材の育成（土佐の観光創生塾、高知デジタルカレッジなど）

◇ 中山間地域の教育の振興

- ・遠隔授業などによる多様な進路希望の実現
- ・魅力ある学校づくり

「活力」を生む
～地域を支える活力の創出～

テーマ：中山間地域の未来を担う人材確保・育成

第六策

デジタル技術の活用

テーマ：デジタル技術の活用による課題解決と活性化

◇ 情報環境の整備

- ・情報通信基盤の整備及び高度化支援（光ファイバー整備など）
- ・スマートフォン活用サポーターの養成

◇ 暮らしの課題解決に向けたデジタル技術の活用

- ・集落の水資源管理の負担軽減
- ・移動販売などの効率化・省力化
- ・オンライン診療の推進
- ・遠隔教育などでの活用拡大
- ・地域交通の利便性の向上（自動運転、MaaSなど）

◇ 地域の再生、活性化に向けたデジタル技術の活用

- ・離島や山間部などの条件不利地域における仕組みづくり

第八策

新たな生業、仕事の創出

◇ 中山間地域の強みを生かした、多様な形態の仕事づくり

- ・起業・新事業展開の促進
- ・小規模林業の推進
- ・地域の事業所（商店）の継業促進
- ・特定地域づくり事業協同組合の立ち上げ促進

◇ 小さなビジネスの創出

- ・集落活動センターや地域団体・グループの地域ビジネスの育成、強化
- ・特用林産の振興

テーマ：中山間地域の特性を生かしたビジネス、産業づくり

「しごと」を生み出す
～所得向上と雇用創出～

第七策

基幹産業の振興

◇ 農業の振興

- ・生産力の向上と高付加価値化による産地の強化
- ・中山間地域の農業を支える仕組みの再構築
- ・流通・販売の支援強化
- ・多様な担い手の確保・育成
- ・農業全体を下支えする基盤整備の推進と農地の確保

◇ 林業の振興

- ・原木生産の拡大
- ・木材産業のイノベーション
- ・木材利用の拡大
- ・担い手の育成・確保

◇ 水産業の振興

- ・漁業生産の構造改革
- ・市場対応力のある産地加工体制の構築
- ・流通・販売の強化
- ・担い手の育成・確保

◇ 商工業の振興

- ・絶え間ないものづくりへの挑戦
- ・外商の加速化と海外展開の促進
- ・商業サービスの活性化
- ・デジタル技術の活用による生産性の向上と事業構造の変革の推進
- ・事業承継・人材確保の推進

◇ 観光業の振興

- ・戦略的な観光地域づくり
- ・効果的なセールス&プロモーション
- ・おもてなしの推進
- ・国際観光の推進
- ・事業体の強化と観光人材の育成

◇ 連携テーマの推進

- ・デジタル化の促進
- ・グリーン化の促進
- ・グローバル化の促進
- ・外商活動の全国展開
- ・担い手の育成・確保

◇ 地域アクションプランの推進

- ・220事業を推進

テーマ：中山間地域で暮らし稼げる産業づくり



集落活動センター

集落活動センターの概要

地域住民が主体となって、旧小学校や集会所等を拠点に、地域外の人材等を活用しながら、近隣の集落や各団体・グループとの連携を図り、生活、福祉、産業、防災などの活動について、それぞれの地域の課題やニーズに応じて総合的に、地域ぐるみで取り組む仕組み

平成24年度より取り組み開始

拠点を中心にして、「集落（地域）の維持、再生」に向けた地域の活性化や支え合いの体制づくりや仕組みづくりを行う取り組み

- ・単なる機能の集約化や施設整備といったハード中心の取り組みではない。
- ・拠点施設を核に、地域課題やニーズに応じ、産業づくりや福祉、生活面でのサービス提供などの活動を展開する、ソフト的な仕組みづくり。

集活センター（愛称）・・・施設、組織体制、取り組み全般を示す

集落活動センターの拠点整備は、あくまでも「手段」。各地域で将来にわたり **集落を維持・再生するための仕組み**を創り上げることが、真の「目的」

集落活動センターの取り組みの特徴、ポイント

①活動の拠点をつくる

・廃校や集会所などを活用し、住民同士の集いや活動、地域外との交流など、様々な地域活動を実践する場、交通の結節点や生活支援、防災、福祉活動などの暮らしを支える機能を果たす場。

⇒暮らしを守る心の拠り所、未来を拓く活性化の拠点

②地域住民の皆様が主役

・行政主導ではなく、住民が主役となって、自らの思いや考えによって取り組みを進める。

⇒行政はサポート役に徹し、放任せず、しっかりと見守る

③活動は地域のオーダーメイド

・地域の抱える課題を解決したり、住民の思いや、やりたいことを実現するため、住民からの発意、アイデア、提案により、自らの手で事業計画を策定し、実践する。いわゆる「オーダーメイド」の取り組み

⇒“十人（センター）十色”の活動内容

④地域外の人材などを活用

・集落活動センターの推進役として、地域の活性化に向け、住民と一緒に活動する人材を地域外から導入する。（大学生やU I ターンなど関係人口の拡大）

⇒将来的には、集落活動センターや地域活動・産業活動の担い手としての定住を目指す

⑤近隣集落による連携

・集落単独では難しくなったコミュニティー活動や共同作業、支え合い活動などを、近隣の集落が互いに助け合い、協力し合いながら、連携して地域ぐるみで取り組む。

⇒連携の単位は、絆が深い旧の小中学校区単位などを想定

集落活動センターの取り組み内容

集落活動センターによる集落維持・再生の仕組みづくり



各地の集落活動センターの事例紹介

大豊町
西峯

西 峯

(人口162人、世帯数121世帯、高齢化率80.9%)

コンテナによる 杉苗の生産と販売



試験栽培中の杉苗の生産ハウス

1. 経過

公民館の移転をきっかけに、**住民が気軽に集える場の建設**を役場に要望。住民が役場等とともに、施設の利用方法や**地域の特長を生かした収益活動**などについて話し合いを重ね、平成27年3月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

拠点施設では、**健康体操や共同集荷**などに取り組んでいるほか、**杉苗のコンテナ栽培**に取り組み、木材の地産地消・地域内循環の仕組みづくりに取り組んでいます。

3. 地域の声

試験的に始めた杉苗の生産は、**最大6.5万本の栽培が可能**な体制を整えました。今後は需要を見据えながら、**更なる増産**を目指していきたいと考えています。

安田町
中山

な か や ま

(人口471人、世帯数246世帯、高齢化率57.3%)

地元産自然薯の 生産拡大



大学生も加わり、自然薯(山芋)の栽培をしています

1. 経過

住民から**休校となった中小中学校の活用**を求める声が出されたのをきっかけに、町と県から集落活動センターの取り組みを提案。事業の実施を決定し、平成25年4月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

集落支援員が事務局を担当し、高齢者の**買い物支援**や**特産品の自然薯(山芋)の栽培や販売**、自然薯を使った**加工品の開発**などに取り組んでいます。

3. 地域の声

平成28年度からは**自然薯(山芋)の生産を拡大**し、販売拡大により地域内での働く場を増やそうと取り組んでいます。そうすることで、**地域でお金が回る仕組み**をつくろうと考えています。

椿原町
初瀬

は つ せ

(人口116人、世帯数67世帯、高齢化率68.1%)

韓国風サウナと レストラン経営



チムシルバンの外観と内部の様子

1. 経過

韓国との交流をきっかけに始めたキムチづくりや高齢者等への配食などの取り組みに加え、**新たな交流施設の運営**を行うため、地域内の組織で推進委員会を立ち上げ、平成25年1月に集落活動センター「はつせ」を開所しました。

2. 概要

平成27年3月からは**韓国風サウナ(チムシルバン)と韓国風レストラン**をオープンし、経営しています。オープン以来、集落人口の90倍、**約14,400名のお客様**が訪れています。

3. 地域の声

「**知る人ぞ知る癒しの隠れ家**」をコンセプトに運営しています。多くの皆さんにお越しいただき、初瀬区・椿原町の良さを知っていただきたいです。

津野町
郷

奥四万十の郷(さと)

(人口310人、世帯数154世帯、高齢化率53.5%)

農家食堂・Café イチヨウノキの運営



地域の食材の調理方法を学んでメニューづくり

1. 経過

廃校となった小学校に代わる地域のランドマーク建設を要望する集会所建設委員会が発足。料理が得意な**女性達も話し合いに加わり**、特産品づくりや農地保全活動等を盛り込んだ**郷地区活性化プラン**を策定し、平成27年6月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

地域内の若者も参加できる婚活イベント「**郷コロン**」の開催や**清掃活動**、また、**高齢者の集い**や地域の食材を用いた**農家食堂の運営**を行っています。

3. 地域の声

たくさんの自然あふれる地域の魅力を、**地元のガイド**による**散策やお食事を通して満喫**していただけます。

四万十市
西土佐大宮

み や の り

(人口224人、世帯数122世帯、高齢化率59.3%)

日用品販売店舗など、 住民生活を地域で支援



支え合いのしくみ

1. 経過

J.A支所の閉鎖をきっかけに、住民が出資した株式会社**がソリンスタンドや日用品販売店舗を経営**してきましたが、地域全体で人口減少や高齢化といった課題に立ち向かうため、地域内の住民や団体が構成する組織を設立し、平成25年5月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

ワークショップで出された意見を6W2Hで分類・整理し、できそうな内容からスケジュールを作成して実行。**放棄竹林の整備**や月2回の**食堂(大宮ランチ)の運営**、旧保育園を改修し、平成28年からは**葬儀**も行うようになりました。

3. 地域の声

危機感を住民が共有し、その上で**アイデアを出し合い、協力し合いながら取り組む**ことが大切です。

仁淀川町
長者

だ ん だ ん の り

(人口516人、世帯数250世帯、高齢化率44.6%)

農家レストラン 「だんだんの里」の運営



地域内外の交流拠点にもなっています

1. 経過

平成15年にボランティアグループによる棚田の再生活動が始まり、棚田でのイベントを実施してきました。町外からのイベント参加者向けの飲食提供を検討している中、**高知県知事との座談会で集落活動センターの仕組みを知り**、平成24年12月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

「だんだんつうしん」の発行や**農家レストランの運営**、社会福祉協議会から受託した配食などに取り組んでいます。

3. 地域の声

子どもたちが、休日に友達と「**だんだんの里**」に行くのを楽しみにしてくれています。

三原村
全域

や ま び こ

(人口1,480人、世帯数759世帯、高齢化率46.1%)

農業公社と連携した、 シトウの生産



新たなハウスでシトウを栽培中

1. 経過

村唯一の生鮮食品販売店の閉店をきっかけに、安心して暮らすことへの危機感が高まり、村内の住民団体や関係機関で構成する集落活動センター推進協議会を立ち上げ、協議を重ね、平成26年3月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

地元食材を使ったランチを提供する**カフェやコインランドリーの運営**、高齢者や若者の働く場として、**ハウスでシトウ栽培**を開始するなど、住民のアイデアを生かした様々な取り組みが始まっています。

3. 地域の声

何から始めるか、**話し合いを積み重ねたこと**が、現在の取り組みにつながっています。

本山町
汗見川

汗 見 川

(人口168人、世帯数96世帯、高齢化率46.8%)

体験イベント充実の 宿泊交流施設



年間約1,000人が利用している「汗見川ふれあいの郷 清流館」

1. 経過

地域を流れる汗見川を守る活動を40年以上続ける中、平成20年度には宿泊交流施設に改修された旧沢ケ内小学校「**汗見川ふれあいの郷 清流館**」の運営を開始。これまでの活動を拡充し、担い手を育成すること等を目指し、平成24年6月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

ソバ打ちやピザ焼き体験、地域食材を利用した**ランチバイキングや川遊びイベントの開催**、特産品の**シソを原料にした加工品**を地元企業と共同開発しています。

3. 地域の声

「**やる人が、やる時に、やることをする**」を合言葉に、仲良く、楽しく活動しています。

県の支援策

◇ 財政的な支援

<立ち上げ前>

● 地域の元気づくり事業費補助金（補助先：市町村又は地域団体等、補助率：1/2）

地域づくりの話し合い、先進地視察、地域活動の計画策定、特産品づくり、伝統文化・祭り・地域行事のイベントなど地域活動を幅広く支援（250千円/1事業）

<立ち上げ時・立ち上げ後>

● 集落活動センター推進事業費補助金（補助先：市町村、補助率：1/2）

① 整備事業（30,000千円／1箇所）

・施設整備等初期投資に係るハード・ソフト事業に対する支援

② 人材導入活用事業（1,600千円／人）

・センター立ち上げ準備や活動を行う者の人件費に対する支援

③ 継続・発展支援事業（ソフト事業：250千円／1事業、ハード事業：10,000千円／1箇所）

・立ち上げ4年目以降、試作品にかかる成分分析等の検査、調査販売、視察、配食サービスの試行、イベント開催等にかかる経費などを助成

活動拠点の整備（整備事業）



事業の拡大
（継続・発展）



10年間（H24～R3）で約13億円（1,309,481千円）の財政的支援

◇ 人的な支援

● アドバイザーの派遣

集落活動センターの立ち上げや運営等について、総合的に助言を行う県のアドバイザー等を地域に派遣
（集落活動センター推進アドバイザー：中山間対策にかかる専門家を複数名を委嘱）

● 研修会等の開催

センターに関係する地域住民や市町村職員、地域おこし協力隊などを対象にした勉強会、研修会や交流会等の開催



アドバイザー支援により
新たな特産品が完成

◇ その他の支援

● 集落活動センターの普及、拡大に向けた総合的な情報の提供

「集落活動センター支援ハンドブック」による普及促進。センターの食や体験メニューをパンフレットにまとめた「土佐巡里」や、ポータルサイト「えいとこうち」及びLINEを活用した情報発信の実施によりセンターの認知度向上、利用促進及び関係人口の拡大を図る

● 集落活動センター連絡協議会への支援

リモート機器等の導入や、協議会の運営をサポート→センターの横のつながりが広がることにより、さらなる活性化へ



集落活動センターのポータルサイト 「えいとこうち」

<https://www.eitoko.jp/>



- 
 集落活動センターとは
- 
 センターができるまで
- 
 センター紹介
- 
 えいとこうち
- 
 えいとこ自慢
- 
 イベント
- 
 観光ルート

地域のえいとこをみんなあで

「集落活動センター」とは、地域住民の皆さまが主体となって、地域外からの人材も受け入れながら、旧小学校や集会所などを拠点に、それぞれの地域の課題やニーズに応じて、生活、福祉、産業、防災といった様々な活動に総合的に取り組む仕組みです。

[もっと詳しく](#)

新着情報

新着情報一覧

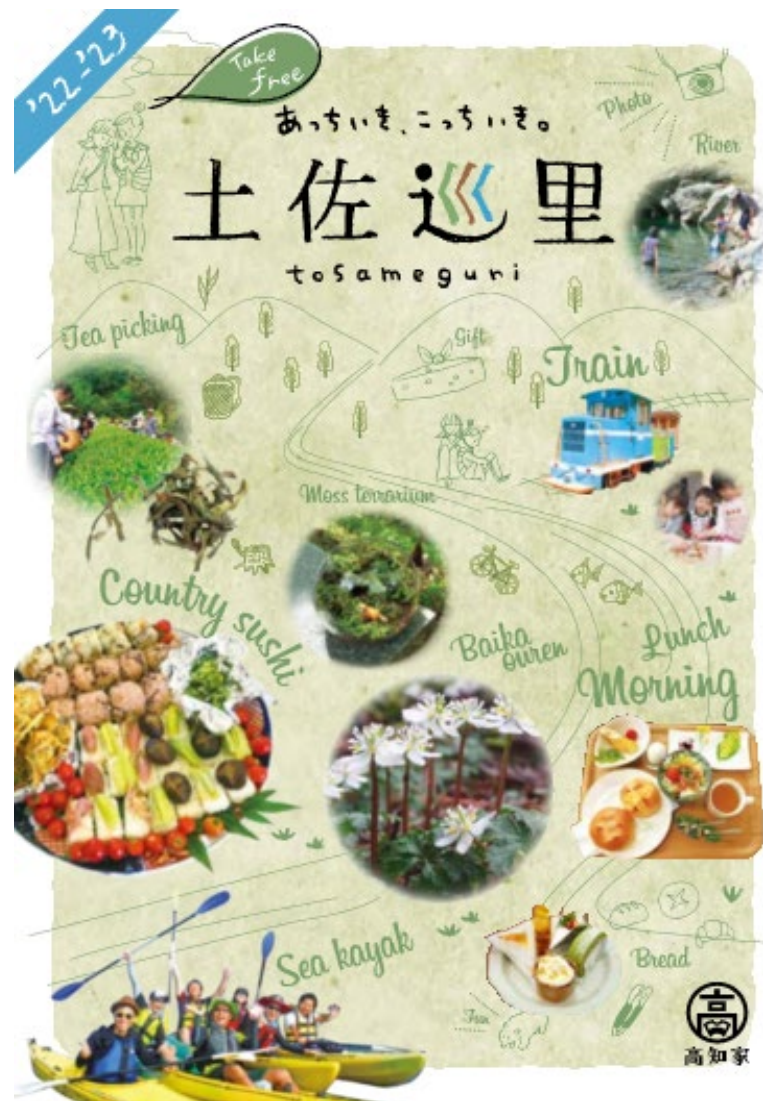
- 2022/06/17 > 【三原村集落活動センターやまびこ】やまびこカフェを再開しました。(高知県三原村)
- 2022/06/17 > 7月3日(日)汗見川セツ(たなばた)ランチを開催します!(高知県本山町)
- 2022/06/14 > 6/19(日)びらふマルシェvol.8を開催します♪(香美市)
- 2022/06/10 > 【6/26(日)開催】盆栽作ってみませ

集落活動センターのLINE公式アカウントで最新情報を発信中!

集落活動センターの取り組みをたくさんの方に知っていただくため、LINE公式アカウントを開設しました。お友達登録をしていただくと、ピザ焼き体験や豆腐づくり体験など、各集落活動センターで開...



集落活動センターの取り組みの紹介冊子 「土佐巡里」



小さな集落活性化事業

集落活動センターと小さな集落活性化

前回（H23）調査の結果から

- ◆ 中山間地域の集落の課題が数字によって明確化
- ◆ 人口減少や厳しい生活環境にも関わらず、**集落どうして助け合**
いながら住み続けたいという皆さまの思いを確認

これまでの取組及び今回調査の結果から見てきた課題

- ◆ 集落活動センターでカバーされていない地域が多く残されている
- ◆ センターの無い地域で新規の立ち上げが困難

集落活動センターを推進

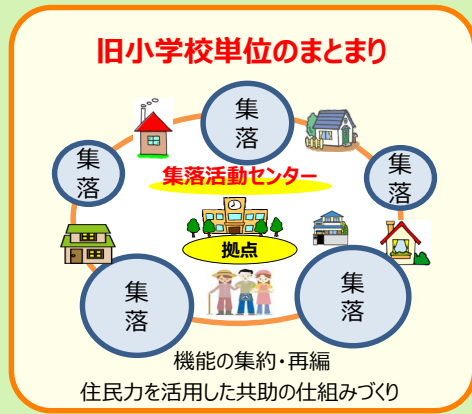
（複数集落で連携して地域活性化を目指す取り組み）

センターの構成集落に入っていない

小さな集落に活力を生み出す取り組みを実施

H24～
集落活動センター

集落間連携による小さな拠点づくり



箇所数：32市町村66箇所
(R5.6.30時点)



「集落活動センターの推進」に
加えて
「小さな集落活性化」の取り組みを実施

R4～
小さな集落活性化

単独の集落を活性化する取り組み



集落活動センターに対する評価（集落実態調査結果から）

- 58.0%の集落が集落活動センターの取り組みにより**地域が良くなった**と回答
- 75.2%の集落が取り組みに**満足している**と回答

小さな集落活性化事業で目指すもの

- 集落活動センターが全域をカバーしていない28市町村で仕
組みづくりに着手（R4～R6）
- 市町村の地域づくりビジョンづくりと併せて横展開 など

- 住民の力や地域の資源などの潜在力を引き出し、地域に新たな動きや活力を創出
- 集落活動センターのさらなる推進と単独の集落を活性化する取り組みによって、県全体で活性化を目指す

小さな集落活性化事業の概要

R4予算：40,000千円

R5予算：61,783千円

県の支援

<小さな集落活性化補助金>

- ・補助先：市町村
- ・補助率
 - ①コーディネーター(Co)人件費：1/2
 - ②課題解決にかかる経費：**定額**
- ・補助上限
 - ①Co：1,250千円
 - ②2年間で①を含め10,000千円
- ※R5：18市町村で実施予定

<専門家による伴走支援>

- ・専門家会議
年3回開催
- ・現地調査
- ・WEB、メールでの個別相談



<コーディネーター研修>

- ・年2回開催
- ・WSの進め方
- ・Co同士の交流
- ・市町村職員も参加



<アドバイザー派遣>

- ・Coや市町村職員が行うワークショップ等へのサポート
- ・上限3回

事業の主な流れ

準備期間

コーディネーター配置

●●町 地域づくり事業構想

事業構想

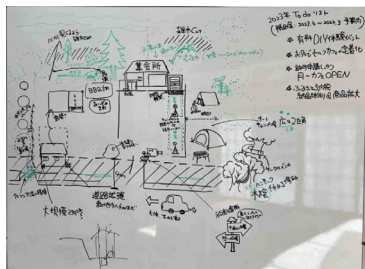
地区名	事業内容	実施年度



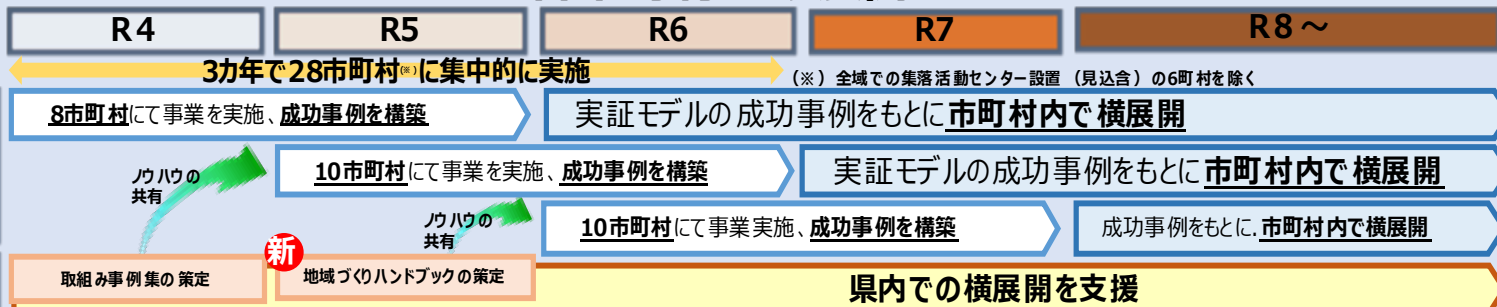
STEP 1 住民参画の話合い

STEP 2 集落の活動計画作成

STEP 3 活動開始



各市町村への展開



目的

- ・集落活動センターの構成集落に入っていない「小さな集落」の維持、活性化を図る取組
- ・実証事業として、1市町村で2年間実施しノウハウを蓄積。県は他の市町村への横展開を図り、実施市町村は管内の他の集落へのすそ野を広げ、県内全域への波及を目指す。

【導入】

【地域の動き】

事業のイメージ

A市町村

< A地区 >

住民の話し合いの促進

- ・積極的に住民に会いに行き、信頼関係を築く
- ・地域住民が参加する座談会やワークショップの開催・進行役
- ・地域の課題や将来像の整理など



コーディネーター

< B地区 >

実際の活動の支援

- ・特産品の販売やイベント企画の提案・計画のまとめ役
- ・地区の伝統行事や学校イベント等、集落を越えた交流活動実施のサポート など



モデル地区以外の地域に広げていく

横展開

C地区
D地区
E地区

支援

専門家会議

- ・助言

県

- ・アドバイザー派遣
- ・コーディネーター研修
- ・ハンドブック（横展開用）

連携

市町村

- ・Coと一緒に地域をサポート
- ・他の集落への横展開の戦略

横展開

全市町村で事業を実施

全市町村



「小さな集落活性化事業」専門家会議 委員の皆さま

【座長】 **小田切 徳美** 明治大学農学部 教授

【副座長】 **平井 太郎** 弘前大学大学院地域社会研究科 教授

【委員】 **嶋田 暁文** 九州大学大学院法学研究院 教授

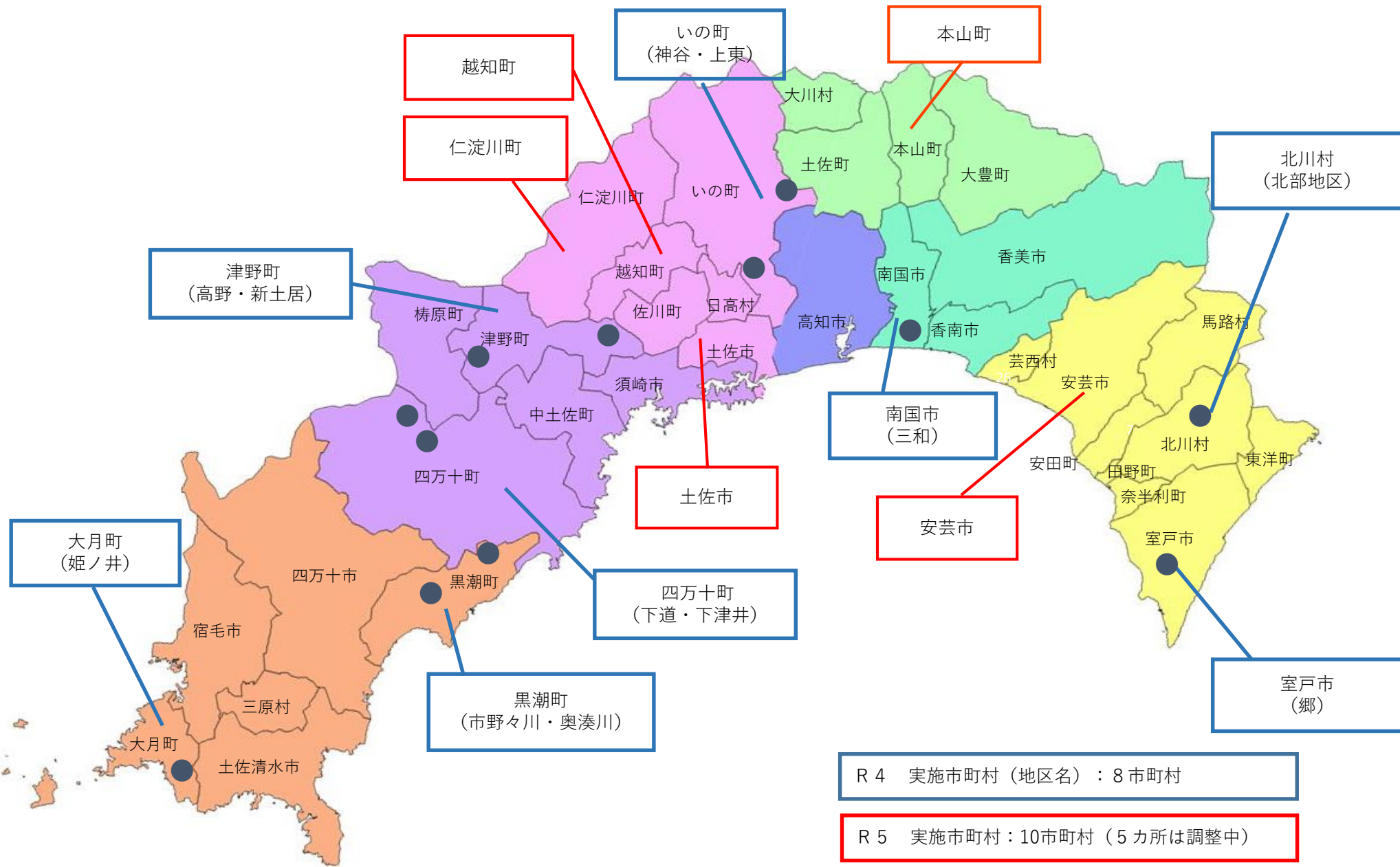
関司 直也 法政大学現代福祉学部 教授

筒井 一伸 鳥取大学地域学部 教授

中塚 雅也 神戸大学大学院農学研究科 教授

(50音順、敬称略)

事業実施市町村



R 4 実施市町村 (地区名) : 8 市町村

R 5 実施市町村 : 10 市町村 (5カ所は調整中)

まとめ

- 集落活動センターの設立支援に10年間取り組んできた結果、その効果・評価は高く、引き続き中山間対策の柱として推進する
- 一方で、センターの設立が進まない地域も存在
- これを小さな集落活性化事業によりカバーし、県全体の集落の活性化を加速する

ようこそ、「歩ける植物図鑑」高知へ。

高知県観光博覧会

らんまんの舞台・高知

牧野博士の
新休日



Dr. Makino's New Holiday in KOCHI

植物学者・牧野富太郎のふるさと高知。県全域で観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」を開催。四季の草花をはじめ、自然、食、歴史など本県の魅力を存分にご体感ください。

令和5年

3月25日



令和6年

3月31日



連続テレビ小説を生かした博覧会推進協議会

Tel.088-823-9606

牧野博士の新休日

